

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市サンホーム
2	指定管理者	特定非営利活動法人 グループゆう
3	指定期間	平成29年4月1日から令和3年3月31日まで（4年間）
4	施設の利用状況	《利用者数》 ・令和元年度 2,904人（前年比 119%） ・平成30年度 2,424人（前年比 83%） ・平成29年度 2,919人（前年比 99%）
		《事業》 ・児童発達支援事業
5	収支の状況	《費用》 ・指定管理者に支払った費用 63,693千円（61,406千円） ・その他市が負担した費用 2,407千円（4,218千円※） ※他施設と併せて設計委託した費用（745,200）も計上している。 《収入》 ・使用料収入 35,768千円（29,374千円） ・その他収入 1,012千円（500千円※） ※他施設と併せて実施した設計委託に係る収入を計上している。
		（ ）は前年度決算額
6	利用者の声	《実施状況》 ・令和2年2月、指定管理者の協力のもと障害者支援課で利用者アンケートを実施した。

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野		所見	評価
I	総則	仕様書に記載されている関係法令及び条例等の遵守及び児童の心身の状態への配慮について、一部不適切な取り扱いがあった。 保護者勉強会の実施やそれぞれの家庭の環境に配慮した家族支援を実施しているほか、児童の進路についても相談しやすい体制を整えている。	36/42
II	施設の運営管理体制	事故防止のための体制構築や取組みにおいて、不十分な点があった。 法人全体で毎年度当初に研修を行うなど個人情報保護の取組みを推進している。	23/24
III	施設・設備の維持管理	施設・設備は適正に管理されており、利用者が快適かつ安全に利用できる環境整備に努めている。 段差の解消工事を実施し、バリアフリー化に取り組んでいる。	24/24
IV	サービスの質の向上	サービス水準を確保するため、定期的なミーティングや職員会議・研修等により人材育成を図るとともに情報共有に努め、職員全体でサービス水準の向上を目指している。 事業者独自の利用者アンケートを学期の節目や行事の都度実施し、運営に対し常に改善を心掛けている。	27/27
V	施設固有の基準	個別支援計画を詳細に作成し、利用者個々の特性に応じた支援の提供を心掛けているほか、言葉遣いにも気を配り、保護者へわかりやすい説明ができるよう配慮している。 指定児童発達支援事業所としての基準を遵守しながら利用者処遇の向上に努めている。	4/4

三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人グループゆう）による自己評価》
<ul style="list-style-type: none"> ・念願の段差解消工事と上部鍵も設置され、転倒や脱出リスクの低減にもつながった。 ・個別療育「おひさまタイム」ではアセスメント力強化に加え、小集団活動への汎化により一貫性のある支援につながった。周囲への影響力のある行動特性をもつ児への支援により特性の配慮のみならず保護者同士の「ともに育ちあう関係性」を促進することができた。 ・保護者勉強会時の親同士の意見交換を通して保護者の気づきや前向きな子育てを支援した。勉強会は「自己肯定感を大切にしたい子育ての重要性」「進路選択」「ことばを育む」「当事者や先輩保護者の語り」「嘱託医による将来への心構え」「感覚統合の考え方」「その子の良さを発見する子育て（ペアトレの考え方）」「保護者自身の心の解放（瞑想体験）」などをテーマにした。 ・保護者のストレスに配慮し、療育中の母子分離や傾聴、療育時間短縮など柔軟な対応に努めた。複雑な家庭はアーチル、家庭健康課などと連携し見守りを強化した。併用中の発達支援事業所と家族を含めた会議を実施し、問題の共有化、サポート内容の確認を行い一貫した支援体制を整備した。 ・卒園児保護者には、行事（夏祭りや茶話会）や勉強会の開催、ボランティア活動への参加などを通して気軽に相談できる機会を作った。卒園児以外では未診断児童の所属先での不適応に伴う支援が増加した。地域子育て支援センターや児童館との協働事業を試み、次年度の事業拡大にもつながった。 ・組織的な人材活用では、主任がマネジメント、副主任が療育の質向上や人材育成、おひさま専任が特性のアセスメント向上と実践、作業療法士が専門的視点からの支援、地域相談員が各施設からの相談窓口、看護師が健康全般の支援など、チームアプローチを通して有機的なクラス運営が可能になった。経験豊富な主任や副主任等により保護者の認知力・理解力や子育て力を補完する重層的な支援を実施した。

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和元年度の管理運営について、一部不適切な取扱いがあった。</p> <p>地域支援の一環として、合築の児童館のほか、近隣の子育て支援センターなど、地域の施設との交流・連携促進を積極的に図り、地域の療育機関としての役割を果たすための取り組みに努めているほか、地域相談体制の強化に向けた地域の子育て支援機関への訪問等の取り組みも実施している。</p> <p>保護者勉強会や、卒園児も参加できる行事を開催し、利用児童の支援だけでなく、家族支援や卒園児支援にも積極的に取り組んでおり、包括的で切れ目のない利用者処遇の向上に努めている。</p>	A

四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：健康福祉局障害福祉部障害者支援課